

【取組内容④】「校内研究授業におけるクラウドを活用した授業研究」

<p><b>取組</b> ②</p>	<p>「Googleジャムボードによる授業研究シートの作成と活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究シートを白紙共有</li> <li>付箋機能で「気付き」のアウトプット</li> <li>授業研究会は月1回（研究授業のたびではなく、まとめて行う）</li> </ul>
<p><b>成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間と空間の調整不要</li> <li>○授業前・授業中・授業後のいつでもアウトプットが可能</li> <li>○気付きを述べる（付箋記入）と同時に集約が可能 ⇒ そのまま記録・蓄積</li> <li>○未参観・未視聴の職員とも閲覧共有可能（追体験ができる）</li> <li>○シートをもとに協議が進行 ⇒ 要点化と時短 ⇒ 集合型研修の回数が減</li> </ul>

授業研究シート・・・「課題」「質問」のシートも作成

◎スライド2枚目...主に参観者が成果（良かった点・効果的な場面等）を付箋で示す。（※貼りながら系統分けするなど工夫する）

**成果**

**動機付け**

- 導入に、わかりやすい文章の具体例を考えさせる
- 一時間の流れがわかりやすく、何をやるのかを明確。（山田）
- ループリックを明らかにして、Sを目標として進めたい
- 「わかりやすい」or「わかりにくい」の目的意識を、必ず明確に本文を読んで考えさせるという意識の場になっていく。
- 文字カウントというものがあつて、ありがとうございませう。
- 見直しやループリックが明確で、活動がスムーズ。質疑付けにもなっている。

問題発見      見直し

**学習方略**

Think

- 根拠を全体で探し出している、その根拠が意見文を書く際のヒントとなり、下位の生徒も取り組みやすい。支援もしやすい。（山田）
- 付箋の内容が興味され、積極的に書いている。

生徒たちが自然にグルーピング始める

- 前の班、考えの形を自分で調べ、資料の差を埋められている。
- 欠席者の本城が入ってきて、授業に参加している
- 意見文を書く時間にもタブレット端末から作文用紙が活用できてよかった。

多様な学び方

協議シート(スライド)・・・小グループ・全体で共有

6班

DX的には「生徒一人一人が」学びのために使いこなすこと。デジタルで学びの在り方が変わること。

①自律的な学習	②学びに向かう力	デジタル活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・班単位で共通の課題を解決する場合、<b>平等に自律的な学びは難しい...</b>。（逆に理科の実験は個人だと難しい）</li> <li>・「教え合い」と一言に言っても、平等な学びは難しい...</li> <li>・デジタルも紙も準備となると、<b>教員の準備は増える...</b>？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班単位の課題は下位層の生徒には有効。</li> <li>・教え合う活動は、言語力の向上には有効。</li> <li>・各教科の<b>評価の基準、材料が気になるところ...</b></li> <li>・教科書の<b>二次元コード</b>読み込んで活用している生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を以て「<b>デジタル活用</b>」とするのか。</li> <li>・プリントをPDF化してテレビに映す（数学）セクション毎にスライドをまとめ、Retellの時間に、それを使って教員に説明する。<b>蓄積には有効</b>。数学のグラフは難しい。文字入</li> </ul> <p>「紙のみ」よりは減る実感。デジタルでできることが圧倒的に多いはず。（アナログのみはデジタルありと比べてどうしても低量・低速・低質。デジタルでできる範囲までも紙だけでやろうとすると準備は膨大。デジタルメインに紙で補うがベスト。）</p>